

(19) 日本国特許庁 ( J P )

(12) 公開特許公報 ( A )

(11) 特許出願公開番号

特開2001-57800

( P2001-57800A )

(43) 公開日 平成13年2月27日 (2001.2.27)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>  
分類不能

識別記号

F I

テーマコード\* (参考)

審査請求 有 請求項の数 1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平11-279799

(22) 出願日 平成11年8月12日 (1999.8.12)

(71) 出願人 599137677

鈴木 正人

静岡県浜松市都田町7555の9

(71) 出願人 599137688

鈴木 すみこ

静岡県浜松市都田町7555の9

(72) 発明者 鈴木 正人

静岡県浜松市都田町7555の9

(54) 【発明の名称】 頭のきれのいい人は、1番2番を、とるとは、限らず、ちゅうぐらい以上出来て、自己判断力が、早い。絶対に、ペリは、とらない。

(57) 【要約】

(課題) 頭のきれのいい人は、1番2番を、とるとは限らず、ちゅうぐらい以上出来て、自己判断力が、早い。絶対に、ペリは、とらない。頭の弱い質の人が、ペリをとる。その方法と結果

(解決手段) 頭の弱い質の人が、ペリを、とるから、会社の方で、そのような、人を、使わなければいい。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】頭のきれのいい人は、1番2番を、とるとは、限らず、ちゅうぐらい以上出来て自己判断力が、早い。絶対に、ベリは、とらない。頭の弱い質の人が、ベリをとる。その方法と結果。

## 【発明の詳細な説明】

頭のきれの権利は、会社の方で、頭のきれの人ばかり使う事が、出来れば、必要である。またそのように、権利として、人を使える事で、ある。また世界じゅうの会社で、そのような能力者を、たよっているから、パソコンインターネットで、情報を、うながしては、ならない。また他人に、言うのもあまりよくは、ない。

(発明の属する技術分野)頭のきれの人は、もともとの、かちきのところが、あるから製造業では、ライン仕事か、むいている仕事で、あるまたパソコン事務職とかデパート業が、むいている仕事で、ある。またそのような能力者は、仕事の覚えるのが、早いめんが、ある。また清潔な職場を好みおおきな音のする職場をさけようとするところが、ある。

(従来技術)今までは、なんパーセント以上の能力者 20

を、会社の方で、使っていた。そのような会社は、ある。

(発明が解決しようとする課題)今まで、例えば、10パーセント以上の能力者を会社で、使って、いたところ、その権利に、よって、50パーセントから95パーセント以上のもともある能力者を会社で、使えるようになった。またそのような能力者は、もともとスタートが、早くもともと手さきが、早いために、物の数をだす事が、可能である。

10 (課題を解決するための手段)頭の弱い質の人は、世界最低レベルで、あるからベリを、とる質で、あるから、会社の方で、そのような人を、使わなければいい。

(発明の実施の形態)頭のきれの人をよりおおく使って、品物の数を、よりおおくだすようこころがける。

(実施例)上記に、のべた仕事か、むいている。またそのような、仕事で、実施してもいい。また従業員と、したら、会社を、やめたくないと思う仕事である。

(発明の効果)頭のきれの人に、よって、品物が、おおめに、できる。